



■充実した冬休みを過ごしましょう

今年の冬休みは、12月22日(土)から1月7日(月)までの17日間です。休みに入ると、クリスマスからお正月そして新学期と慌しく時が過ぎます。

冬休み期間は、親子で計画的に規則正しく生活しましょう。また、1年の計は元旦にありと言うように、しっかりと新年を迎えられるようにしましょう。

冬休み中に子供へ取り組みさせたいこと

- ①勉強机等の整理整頓
- ②一日の生活表の作成と実行
- ③今年の反省・新年の目標



年末年始は、保護者の方も休みが多くなります。冬休み期間は、家族で楽しめるクリスマスや初詣など、子供とのふれあいを増やして親子の絆を深めましょう。充実した冬休みが、3学期の学校生活につながります。



まびの窓おの庭

『二足の草鞋』

No.52 志布志高等学校 校長 二石 政彦

小学校の4、5年時の担任の先生みたいになりたくて、家業は継がず学校の先生になろうと思いました。高校では文系を選択し、大学では「英語学」を専攻しました。剣道は小学校3年から大学4年まで続けて、小学校では団長、中学校では副主将、高校と大学では主将を務めました。

「大学を卒業したら鹿児島に帰って教員になる」という両親との約束を何とか果たして、新規採用教員として鹿児島市の高校に勤務することができました。「教師は授業と部活で勝負する」という先輩教師の言葉を胸に、英語と剣道の「二足の草鞋」を履く決心をしました。教師1年目は指導力不足で、生徒たちには迷惑をかけましたが、その頃の生徒たちが今でも慕ってくれるのが嬉しいです。

宮本武蔵の「千日の稽古を鍛とし 万日の稽古を練とす 然して勝負は一瞬なり」は、備え(preparation)の大切さを説いたものだと思います。予習然り、受験然り、仕事然りです。私自身は英語に46年、剣道に50年関わっていますが、未だ道半ばです。

「二足の草鞋を履く」とは、2倍の努力をするということです。どちらも全力を尽くす。プロの教師がいい加減なことをすると信頼を失います。生徒にも「文武両道」とは、人の2倍努力することだと指導してきました。

「二足の草鞋を履く」とは、2つの文化を経験するということです。横と縦の文化、銃と刀、シェイクハンドとお辞儀の文化、和魂洋才。私は英語の joke、humorも好きですが、「礼に始まり礼に終わる」剣道の世界をこよなく愛します。

